
日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2009 年度 NO.1

目次

- ・第10回大会準備について
- ・年報編集委員会報告
- ・企画研究委員会報告
- ・理事会報告
- ・支部活動報告（関西支部、九州支部）
- ・平成21年度高良記念研究助成募集について
- ・役員選出選挙について
- ・10周年記念事業について
- ・事務局便り
- ・新入会員、退会者リスト
- ・所属・住所等変更リスト

・第10回大会準備報告

平成21年10月10日（土）、記念すべき第10回大会を嘉悦大学（創立1903年）で開催いたします。みなさまには、ぜひ今からご予約いただきたく、お願い申し上げます。精一杯おもてなししたいと存じております。

大会のテーマは、「経済大転換期におけるインターンシップと人材育成 ―学び、働き、生き抜く力の強化に向けて―」としました。午前中、基調・特別講演として、嘉悦大学学長加藤寛博士（経済学）、明治大学副学長坂本恒夫博士（経営学）、新日本有限責任監査法人 Ernst & Young MR. Morgan Chaudeler（公認会計士）にご登壇いただきます。お聞き逃しのないうち、お運びください。

講演後総会と昼食をはさんで、午後は研究発表、シンポジウム、そして懇親会で締め括ります。高良記念研究助成を受けた会員の発表を2件予定しています。研究発表に多数応募いただきますよう、申し込みをお待ちいたしております。ホームページに申込方法・締切など詳しく掲載しますので、そちらをご参照ください。シンポジウムでは、学会設立から10年が経つなか、これまでの取り組みを振り返り、将来を展望します。

なお、『第10回大会要旨集』に、「人的資源管理」がご専門の佐野陽子博士（経済学。嘉悦大学名誉学長）にご寄稿いただきます。大会に関するご質問等は、jsi2009-10th-request@kaetsu.ac.jp までお願いします。

第10回大会は10月10日開催です。みなさまとのおもめじを楽しみにお待ちしております。

（第10回大会実行委員長 古閑 博美）

学会誌編集状況について

現在平成21年度発行の学会誌の編集に取り組んでいるところです。今年は8篇の投稿を頂き投稿論文の査読を終え、各投稿者に対して修正方をお願いし、「論文」、「研究ノート」、「報告」に分類し、5月

中旬頃には印刷に回す予定でおります。

（年報編集委員会委員長 石田 宏之）

企画研究委員会報告

2008年度第3回研究会の報告

第3回研究会を筑波大学で開催

2009年3月14日、筑波大学で「インターンシップの短期化をどう考え、どう対処するか」というテーマでの研究会を開催。

第1部は、基調講演者として首都大学東京、太田正廣教授をお招きし、「首都大学東京の都市教養プログラムと現場体験型インターンシップ」というテーマでご講演をお願いした。太田教授から、同大学の初年次教育・基礎教育として、①実践英語、②情報リテラシー、③基礎ゼミナール、④都市教養プログラムがあること。現場体験型インターンシップは、「都市教養プログラム」の選択科目として位置づけられていることなどカリキュラム体系の説明があった。その上で、主として学部1・2年生が6日間以上の現場体験をする現場体験型インターンシップの概要についてのご講話を拝聴し、フロアと活発な意見交換が行われた。特に入学まもない1年生の5割以上にあたる650人が約360箇所の事業所で体験するインターンシップについて、マッチングを巡る課題、事前・事後の学習、評価などに関する質問が飛び交い、活発な意見交換が行われた。なお、今回の太田教授から報告があった「初年次教育・教養教育とインターンシップ」というテーマについては、今後とも学会で研究することにしたい。

第2部は、太田正廣教授、岡崎仁美氏（リクルート・リクナビ編集長）、高橋宏氏（東京国際大学教授）、加藤敏明氏（立命館大学教授）でパネル討議を実施、司会は田中宣秀（企画研究委員長）が務めた。今般のパネルの狙いは、インターンシップの短期化・長期化の2極化が進むなかで、1週間以内の期間で実効を上げている事例、採用を前提とした母集団稼働の企業見学の実態、短期化の意味、インターンシップの呼称問題などについて種々意見交換することに

あった。まず、岡崎氏から、リクルート社の「就職活動準備サイト」に掲載されているオープン型インターンシップについて、「単なる会社説明会型では応募者が少なく、参加者の満足度は低い。企業にとっても採用の歩留まりが悪く、目下の景況下では下降傾向にある」との報告があった。高橋教授からは、毎週1日だけの英語ガイドボランティアが数ヶ月続く観光インターンシップの事例紹介がなされた。加藤教授からは、短期化の問題を考える際に重要な視点は、『インターンシップの推進に当たっての基本的考え方』にあるインターンシップの定義・意義に戻って考えるべきであるとの意見が出された。パネルでは結論の集約ができなかったが、「1週間以内のインターンシップは短期とし定義すべし」、「企業見学が仮に半日でも1日でも、全学組織での取組み、事前準備（学びの検証機能）が行き届き、それを学生が理解し、事後評価の確認ができれば、インターンシップである」、「学生を採用するための母集団形成稼ぎの企業見学はインターンシップと呼ばない」といった方向性が示された。今後、本日のパネル討議の結果を踏まえつつ、学会としての統一意見を集約、発表する方向で検討を進めることにした。なお、パネル討議の概要は別途HPに掲載の予定。

(企画研究委員会委員長 田中 宣秀)

理事会報告

2008年度第4回理事会 (12/13@京都)

- (1) 前回理事会議事録原案通り了承。
 - (2) 第9回大会(豊橋創造大学)報告が石田宏之大会実行委員長より第9回大会報告がなされた。参加は163名であった。
 - (3) 研究年報第12号刊行準備状況について石田宏之年報編集委員長より、投稿規定の改正について報告があった。
 - (4) 第10回大会の準備状況について、事務局長より大会日程(10月10日[土])決定の報告がなされた。
 - (5) 研究会活動の計画について田中企画研究委員長より、第3回研究会のテーマ、「いわゆる短期インターンシップについて(仮題)」について報告された。
 - (6) 平成19年度高良記念研究助成研究終了報告が那須委員長よりなされた。平成19年度受賞者である長尾、江口両氏の第9回大会における研究発表の報告確認報告、研究終了報告書の回覧がなされた。
 - (7) 事務局よりNews Letter第2号の発行、未納会員への会費督促、名簿発行について報告がなされた。
 - (8) その他として、榎本広報委員長より、News Letter、ホームページの運用方法の確定報告がなされた。
- 後援事業の報告として、①日本インターンシップ推進協会の報告会へ後援②福岡県インターンシップ推

進協議会との共催で九州支部研究会の開催。

- (9) 審議事項として、①入退会について②理事選挙日程および理事選挙管理委員会の設置について③十周年記念事業について、それぞれ報告審議がなされた。
- ### 2008年度第5回理事会 (3/14@筑波大学)
- (1) 前回理事会議事録について原案通り了承。
 - (2) 石田宏之年報編集委員長より投稿件数、編集の進捗状況について報告があった。
 - (3) 第10回大会@嘉悦大学の進捗状況についての報告がなされた。
 - (4) 理事選挙管理委員として、石田宏之氏、長尾博暢氏、安部恵美子氏の3名が就任し、委員長に石田氏が選任されたこと、投票スケジュールが確定したこと等について報告がなされた。
 - (5) 十周年記念事業ワーキンググループから、学会10周年記念事業についての企画案が提示された。
 - (6) 支部報告として、関西支部からは12月の研究会報告と今後の研究会テーマについて、九州支部からは1月の第3回研究会報告、6月の第4回研究会の計画について報告があった。
 - (7) 事務局から、会員名簿の発送完了報告があった。個人情報保護の観点から今後改善すべき点が検討された。
 - (8) 審議事項として、①入退会者についての審議承認がされた。②平成21年度の年間活動計画について審議承認された。③第10回大会準備状況について報告審議された。④理事選挙の実施についての確認がなされた。⑤平成21年度高良記念研究助成審査委員会の設置について審議された。⑥十周年記念事業について報告審議がなされた。(事務局)

支部活動報告(関西支部、九州支部)

関西支部の活動計画について

2005年12月の発足から4年目を迎えた関西支部はこれまで、学校種別に優れたインターンシップの研究発表を紹介してきた。結果、理系大学院(05年)、総合大学(06年)、工業高专(07年)、女子大(08年)と展開し、当初の目的は概ね達成できたと思われる。

そこで本年からは切り口を変え、正課のカリキュラムに様々な形で位置づけられたインターンシップの取組みを追究したい。ついては、その第一弾として、本年12月に教養教育に位置づけたインターンシップの研究発表を紹介する計画である。

教養教育は、大学教育改革の重要な柱の一つであり、産学連携教育との関わり方もまた、時代の懸案と言えよう。関西支部としては、インターンシップが真に教育プログラムとして機能するための指針を得るために、まずは教養教育として明確に位置づけられた取組みを研究する考えである。

なお、発足以来追究してきた学校種別の研究発表についてはこれまでデータ化を進めてきており、本年度末に向けて報告書としてまとめる方向で検討を進めている。

(関西支部長 加藤 敏明)

九州支部の活動報告および今後の計画について

[第3回九州支部研究会報告]

2009年1月13日(火)に、社団法人 福岡県専修学校各種学校協会との共同開催で、第3回日本インターンシップ学会九州支部研究会を開催した。

《第1部》では、「地域と連携した有報酬インターンシップ」をめぐって、会員校の長崎短期大学、安部恵美子、牟田美信会員から『長崎短大のインターンシップーハウステンボスと連携しながらー』と題して、短大における有報酬のインターンシップの取組みについての報告があった。

《第2部》では、第一部での報告の論点を確認し、参加者がそれぞれの現場でのインターンシップへの関わってきた経験を語りあい、それらを学術的研究へと高めていくためのグループディスカッションが実施された。

会員・非会員50名あまりの参加者をえて、特に短大と専門学校の垣根を越えた、活発な意見交換が行なわれました。ご参加いただきました皆様には、心よりお礼申し上げます。(九州支部 渡邊 和明)

[第4回研究会のご案内]

九州支部では、第4回研究会(平成21年度第1回)を開催します。『九州からグローバルなインターンシップを考える』をテーマとして、留学生のインターンシップ受け入れに関する現状や課題について発表を予定しています。また海外インターンシップについての現状や課題についても報告を予定しています。詳細につきましては、後日学会ホームページ等で告知させていただきますので、ご確認ください。

○日時：平成21年6月27日(土)15:00~17:30

○場所：九州大学 箱崎キャンパス

(九州支部 真鍋 和博)

21年度高良記念研究助成募集について

インターンシップに係る研究あるいは実践活動の発展・普及のために、「高良記念研究助成」を平成19年度から実施しています。特に若手研究者の方は優遇いたします。また個人の研究の他、会員相互の共同研究のためにもお申し込み頂いて結構です。この制度は高良和武名誉会長から学会へ寄付頂いた基金をもとに実施しています。さらに楨本淳子先生からも、寄贈を頂きました。

平成21年度の研究助成の募集要項や申請書書式など、書類につきましては、本ニュースレターに同封されております(また、学会のホームページから

も入手できます)。ぜひ御覧を頂き、応募を頂けますように、お願いいたします。助成金額は一口10万円までで、2口まで提供します。

申し込みの締切りは、平成21年6月20日(土)です(当日までに事務局へ必着)。審査委員会では、お申し込みを受けて採否を審査し、その結果を8月末開催予定の理事会で決定します。研究助成の対象者は、大会の総会の席上において発表され、その研究助成期間は1年間です。来年度(平成22年度)の大会において、その研究成果を発表して頂きます。研究成果は、研究年報に投稿して頂き、助成研究として掲載されます。

一つ、ご留意頂きたいのは、各費用のうち物品費と謝金がそれぞれ合計金額の2分の1まで、ということ。ご注意ください。

(高良記念研究助成審査委員会)

選挙管理委員長挨拶及び理事選挙のお願い

3月14日の委員会で委員長を仰せつかりました石田です。インターンシップ学会も会員数が150名を超え、また学会も今年10周年記念を迎えることとなりました。この10年の経験を土台に新たな学会活動を目指し、始めて理事選挙をおこなうこととなりました。会員の皆様には、既に投票用紙が送られていると思いますが、なにとぞ趣旨をご理解の上、投票にご協力くださるようよろしくお願い申し上げます。(レターが投票締め切り後に発行される場合には、ご容赦下さい)。

(理事選挙委員長 石田 宏之)

10周年記念事業について

記念事業WGでは、○第10回大会、○記念論文集発行、○アンケート実施、○10周年記念シンポジウム開催などについて検討を続けている。進捗状況は以下の通り。

○第10回大会：嘉悦大学での開催が決定。「第10回大会準備報告」ご参照

○アンケートの件

「日本インターンシップ学会における活動状況とニーズに関する会員アンケート調査」を実施済み。多数のご回答を頂いており、この場をお借りして深謝申し上げます。本アンケートは、皆様のニーズを把握することにより、学会の一層の発展を図ることを目的とするもの。現在、集計中で、別途ご報告致したい。

○記念刊行物発行の件

記念論文集を発行する方向で検討を進めてきたが、去る3月の理事会で、「インターンシップ学会活動の10年」、「インターンシップ研究の10年」の2大テ

ーマとし、*新たなテーマでの論文は執筆しない、
*記名式とする、という方向性が確認された。皆様
の中で、このテーマに関する関連資料をお持ちでし
たら、記念事業WG宛にご一報を願いたい。

○10周年記念シンポジウムほか

検討中で、決定次第、HP等で連絡致したい。

(10周年記念事業WG 田中 宣秀)

事務局便り

「会員情報調査票」提出のお願い

新年度になり、新天地で活動を開始された会員も
多いことと存じます。今年度も同封の「会員情報調
査票」の確認をお願いいたします。所属・住所等が
変わりましたら、速やかに事務局迄お届け下さい。
連絡先が不明になりますと、年報やニュースレター、
大会案内等、会員サービスが受けられなくなります
のでご注意下さい。

また、皆様から返信された調査票をもとに、会員
名簿を作成しております。名簿掲載事項の可否につ
いても毎年必ず連絡願います。

会費納入のお願い

新年度になりましたので、年会費の納入をお願い
いたします。詳細につきましては、本ニュースレタ
ーに同封しております「会費納入のお願い」などを
ご参照下さい。

会費納入先

【郵便振替】口座番号01760-9-118957

加入者名 日本インターンシップ学会

【ゆうちょ銀行】店番179 店名 一七九店

(当座) 0118957

受取人名 日本インターンシップ学会

【銀行振込】福岡銀行 箱崎支店

(普通) 2175253

日本インターンシップ学会 News Letter 2009.No.1

平成21年5月7日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 田村 紀雄

編集 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 吉本 圭一

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学教育学部 教育社会学研究室内

電話 092-642-3125 FAX 092-642-4355 E-mail jsi-edu@edu.kyushu-u.ac.jp

Website <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsi/>